



園長便り



2021年11月30日発行

セブンスデー・アドベンチスト石川教会附属 石川三育保育園

日に日に冬を感じる季節です。みなさまいかがお過ごしでしょうか。12月と言えばクリスマス、そして年末ですね。何かとあわただしい一か月を迎えます。でも、子どもたちにとっては一番楽しみな月かもしれませんね。保育園ではクリスマス会に向けた練習で子ども達の元気な歌声が響きます。

クリスマスはイエス様の誕生をお祝いする日です。今回はそのイエス様の誕生について少し考えてみたいと思います。聖書には、イエス様は神であったのに人となり、地上にいられた、ということが書かれています。

「『見よ、おとめがみごもって男の子を産むであろう。その名はインマヌエルと呼ばれるであろう』。これは、『神われらと共にいます』という意味である。」(マタイ1:23)

私たちは時に、神様はいるのかな、いるとしても何か遠く離れている存在だな、と考えることがあるかもしれません。しかし聖書によると、神様は私たちと共におられる神様なのです。イエス様は赤ちゃんとして生まれました。赤ちゃんは自分で食べることもできず、おむつを替えることもできず、成長するまでの間、すべてのことを両親に頼らなければならない存在です。聖書は神様であられた方が、私たち人間と共にいるために、その赤ちゃんになり、イスラエルのベツレヘムという町でお生まれになったと記しているのです。

保育園クリスマス会の降誕劇でイエス様誕生の話を目にされると思いますが、イエス様誕生の時にその姿を見た人はイエス様の両親であったマリヤとヨセフ、羊飼いたち、そして東方からの博士だけであったと聖書には記録されています。しかもイエス様は馬小屋で生まれたのです。このようにイエス様は神様であったのに、身を引くくし、この地上にいられたのです。

「キリストは神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして僕の身分になり、人間と同じ者になられました。(フィリピ2:6~7)」と聖書は語ります。「君は愛されるため生まれた」という歌がありますが、聖書では神様が人間を愛してくださっており、その愛のゆえに、人となられ、地上にいられたということが記されています。

プレゼントを贈ったり、おいしいケーキを食べたり、家族と過ごしたりし、このクリスマスの季節を楽しんでいただきたいと思います。それと同時にこのクリスマスには、その誕生をお祝いしているイエス様のことを思っただけれたらなと思います。そして、聖書には、神様が皆様を愛しておられるということが書かれているのを覚えていただければと思います。メリークリスマス！

石川三育保育園 園長 松下晃大

